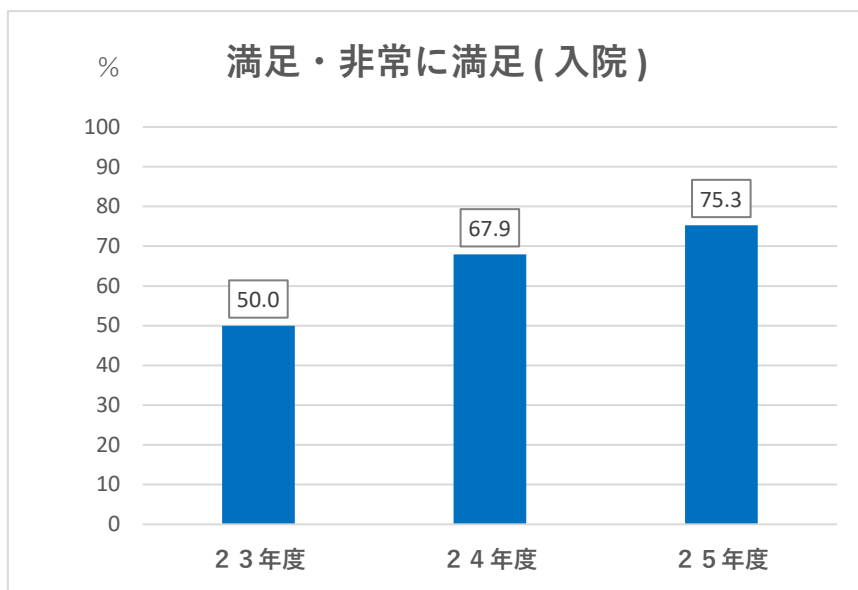
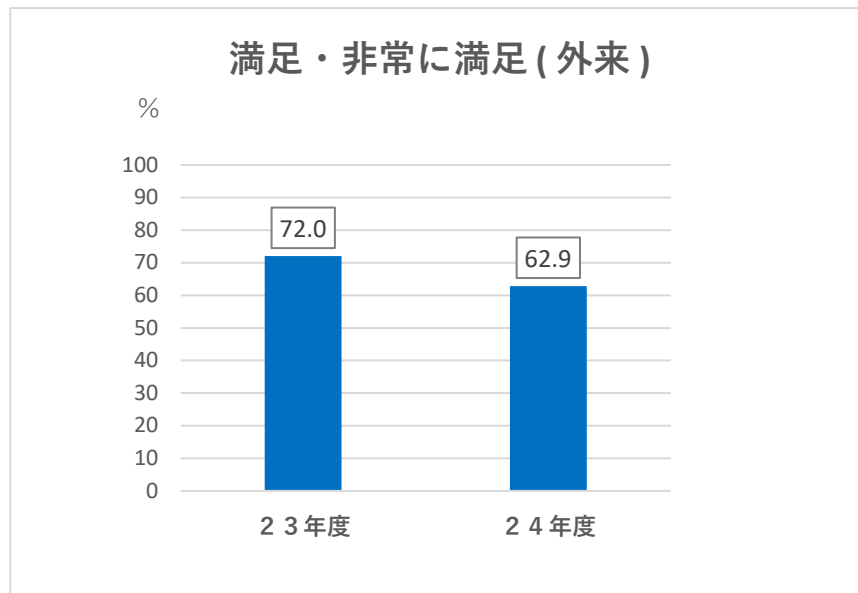


## 臨床指標一覧

患者満足度調査
退院サマリー（2週間以内）作成率
食事満足度調査
転倒転落発生率
入院患者の転倒転落発生率（（損傷レベル2以上））
リハビリテーション実績指数
回復期病棟のリハビリ実施単位数（患者1人当たりの1日実施単位数）
回復期病棟の延べ入院患者数
回復期病棟の疾患別入院患者数
回復期病棟の平均在院日数
回復期病棟の在宅復帰率
手術前1時間以内の予防的抗菌薬投与率
救急患者受け入れ件数
身体的拘束の実施率

## ■ 患者満足度調査

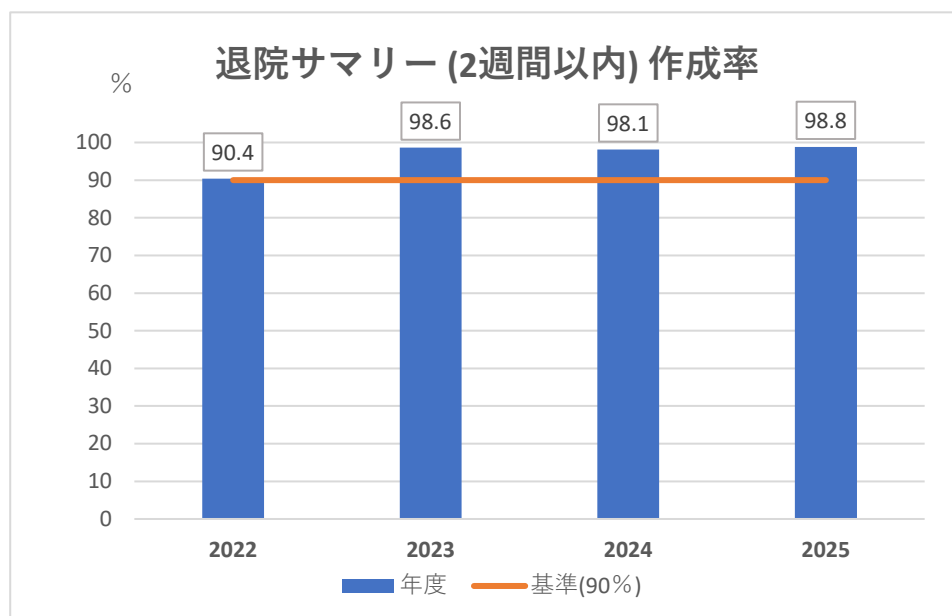
当院を利用されている外来患者、入院患者を対象に実施している患者満足度調査、退院時アンケートにより、5段階評価（「満足」、「やや満足」、「どちらともいえない」、「やや不満」、「不満」）を集計し、「満足」及び「やや満足」と回答いただいた割合を表しています。より高い値を目指していきます。



## ■ 退院サマリー（2週間以内）作成率

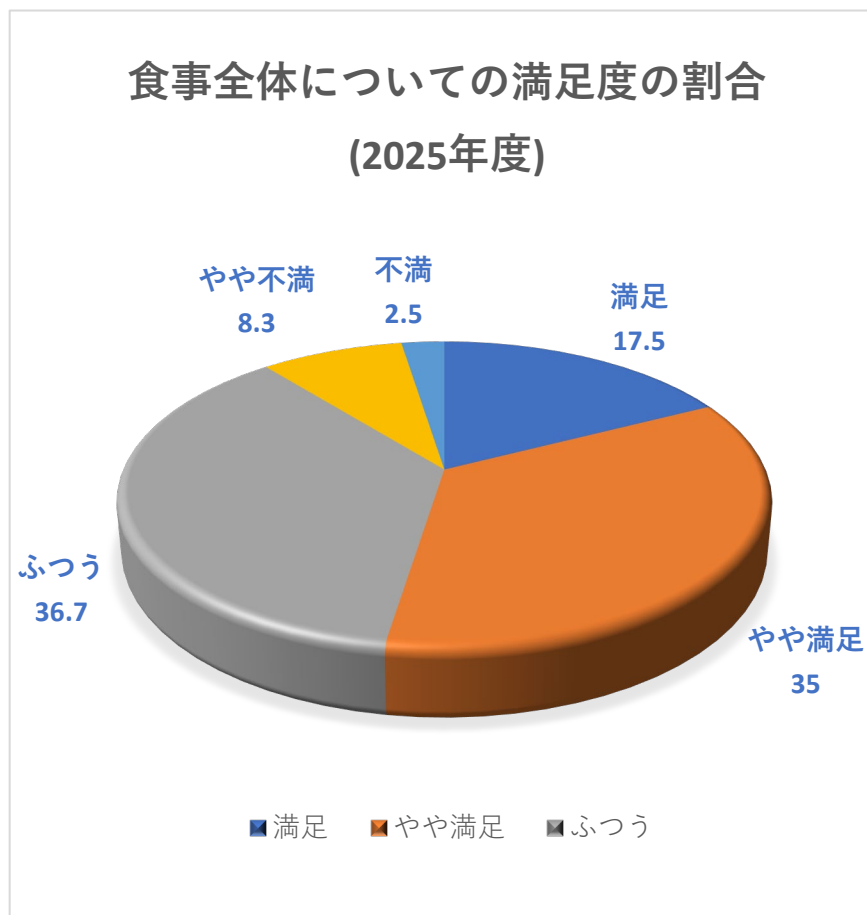
患者さんが退院してから、2週間以内に退院サマリー（入院期間中に行った診療の内容を要約したもの）を完成させた割合を表しています。

特に退院後、継続して外来を受診する場合や他の医療機関へ転院する場合などには、入院期間中の医療行為を容易に把握できるように速やかに作成する必要があります。90%以上を維持します。



## ■ 食事満足度調査

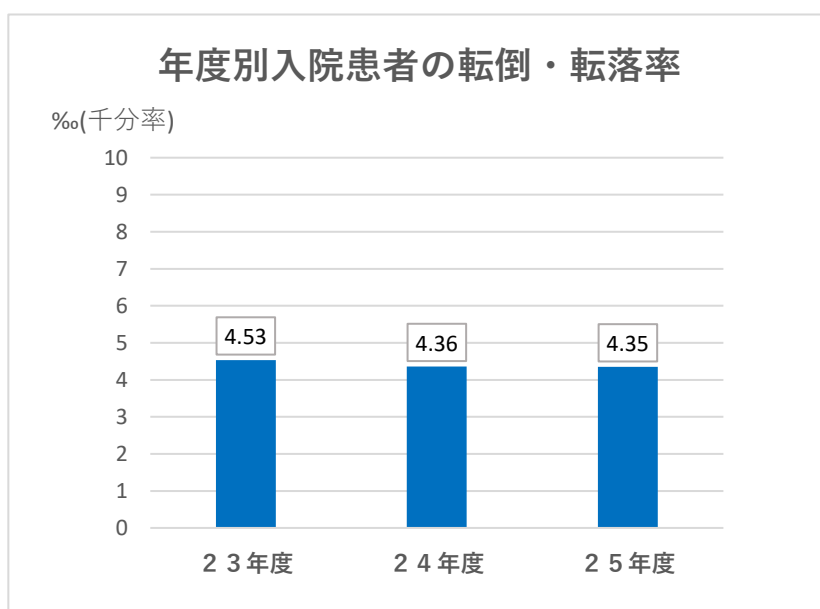
25年度嗜好調査において、当院の食事全体についての満足度を、満足、やや満足、ふつう、やや不満、不満の5段階で評価



## ■ 転倒転落発生率

入院中の患者さんが転倒・転落した割合を表しています。

入院中の転倒やベッドからの転落の原因としては、入院という環境の変化によるものや年齢、疾患そのもの、治療・手術などによる身体的なものなどさまざまなものがあります。職員が防止に全力を尽くしても、危険因子（転倒転落を引き起こす原因）を多く持つ患者さんにおいては、防止が困難な場合があります。しかし、万一転倒した場合にも外傷が軽く済むような工夫など、最低限の外傷で済むような対応を行い、尚且つ、転倒転落発生の低下を目指します。

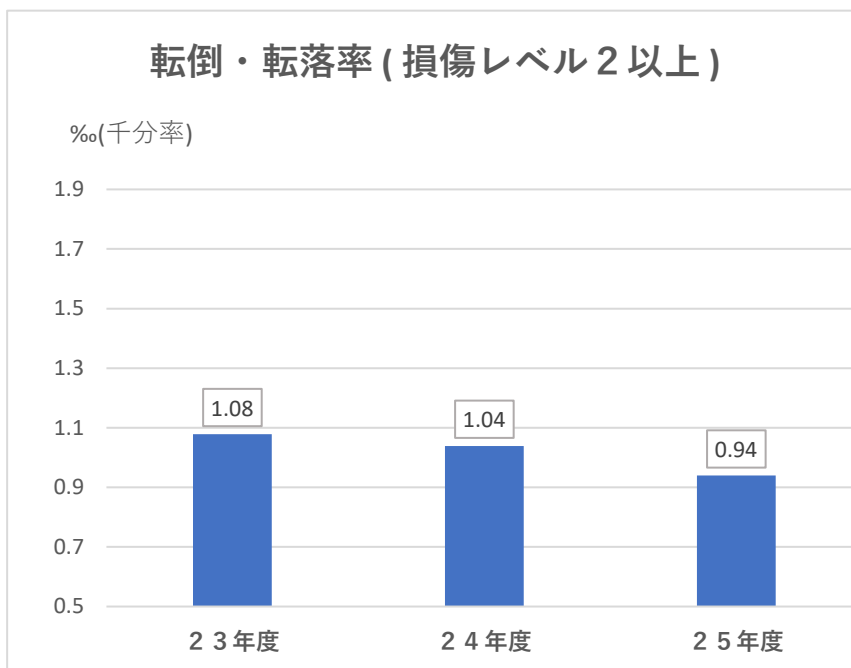


## ■ 入院患者の転倒・転落率（損傷レベル2以上）

入院患者さんが損傷レベル2以上の転倒・転落した場合の発生の程度

### 損傷レベルの分類例（転倒・転落の場合）

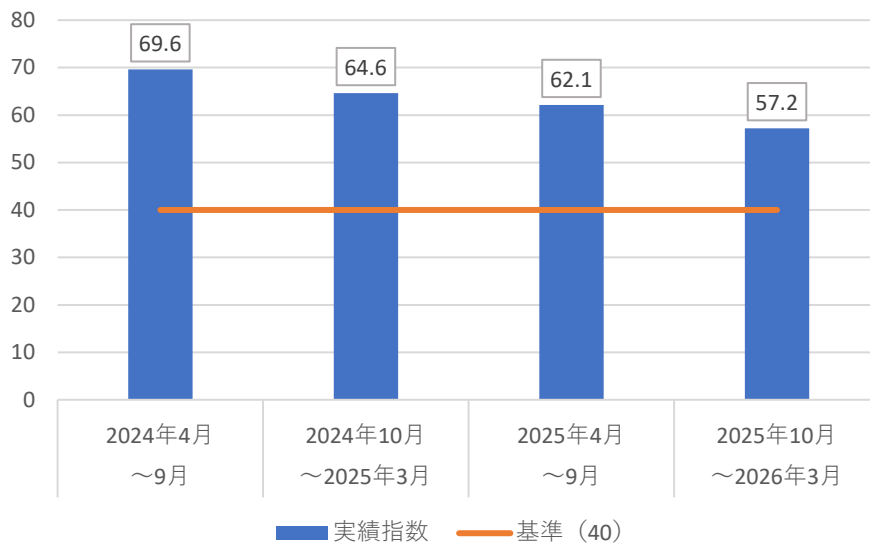
レベル1:	損傷なし。
レベル2（軽度）:	包帯、湿布、創傷洗浄、あざ、擦り傷など。
レベル3a（中等度）:	縫合、副子、筋肉・関節の挫傷など。
レベル3b（高度）/レベル4（重度）:	手術、ギプス、骨折、神経損傷、身体内部の損傷など、大きな処置や入院が必要になるレベル。
レベル5（死亡）:	転倒・転落の結果、患者が死亡に至った場合。



## ■ リハビリテーション実績指数

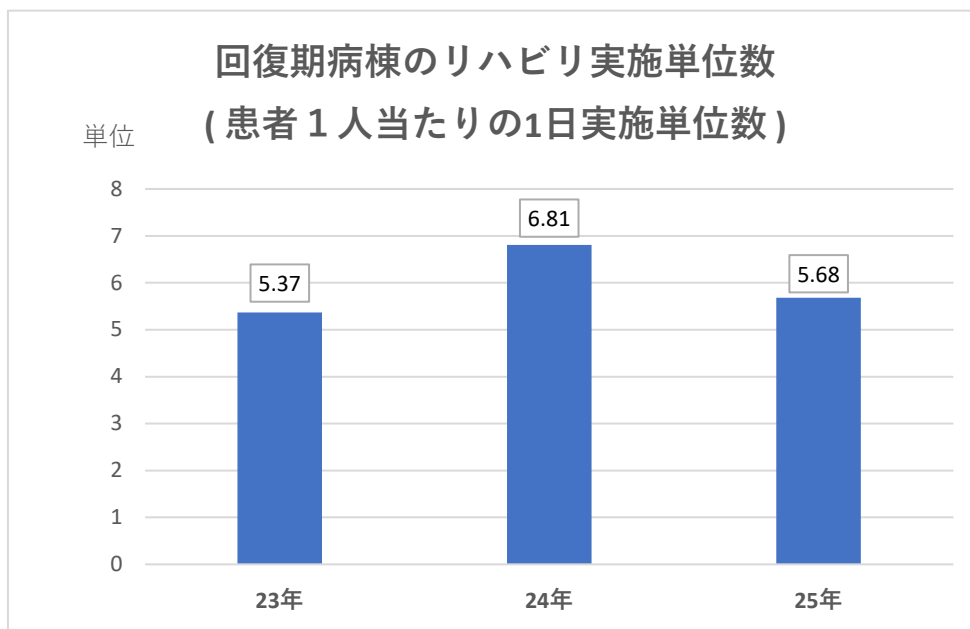
リハビリテーションの提供により、入院から退院まで日常生活動作がどの位回復したかを点数化したものです。この指数が高いほど、単位時間あたりのリハビリの効果大きいことを示し、平均40以上が必要とされています。

### リハビリテーション実績指数

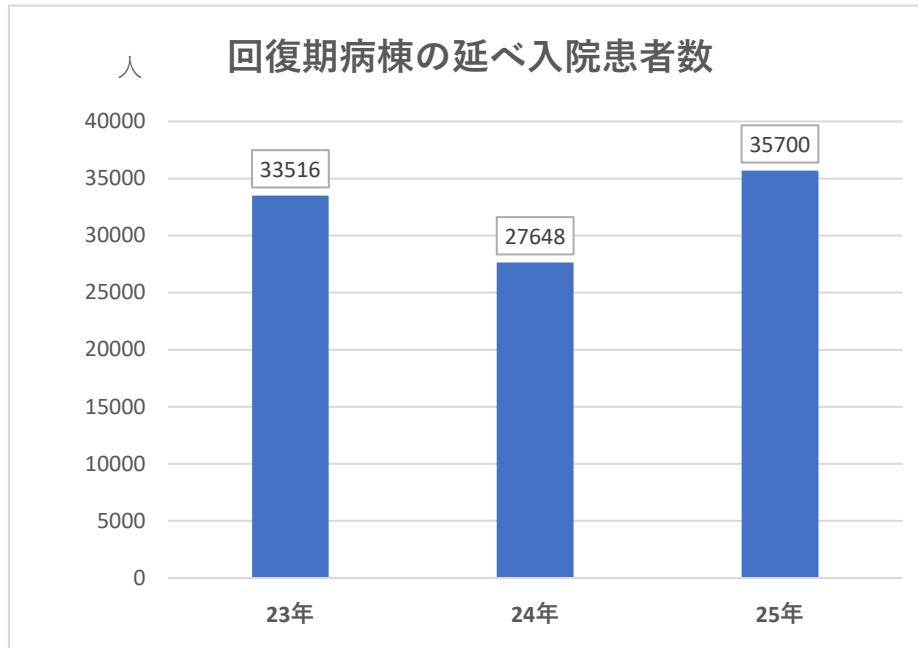


## ■ 回復期病棟のリハビリ実施単位数

患者1人当たりの1日実施単位数。患者さんの状態に応じた適切な単位数で提供されているか、過不足はないかなどを評価します。制度的な上限があり、疾患によっても異なりますが、1日当たり6単位前後を維持します。



## ■ 回復期病棟の延べ入院患者数



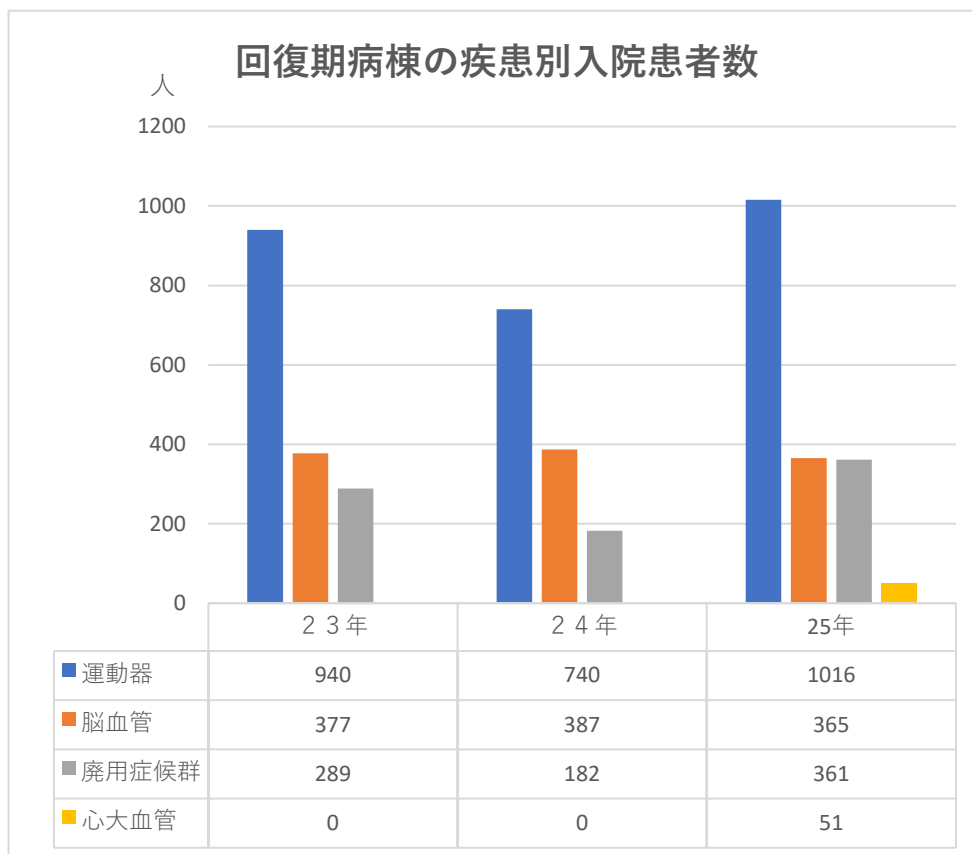
## ■ 回復期病棟疾患別入院患者数

運動器疾患: 大腿骨近位部骨折、脊椎圧迫骨折などの整形外科的疾患。

脳血管疾患: 脳梗塞、脳出血、クモ膜下出血など。

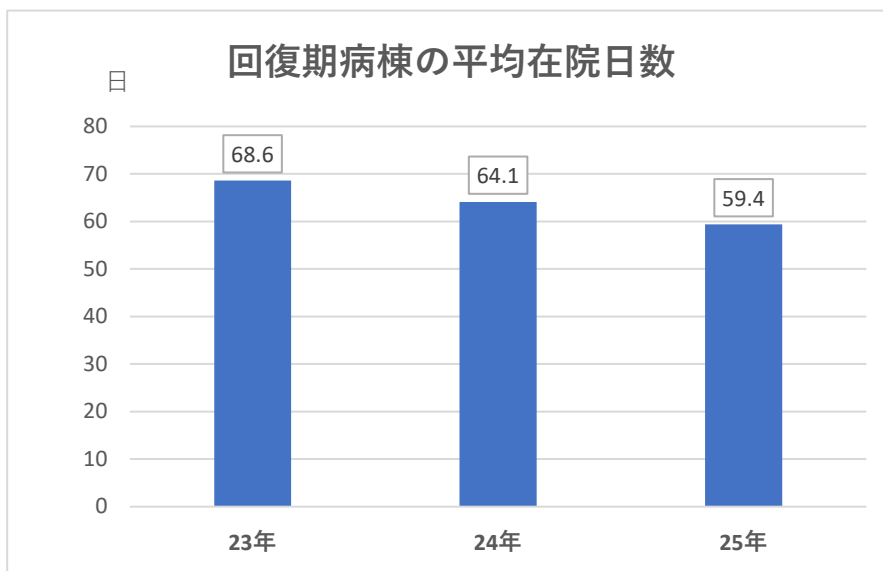
廃用症候群: 手術後や急性疾患による安静が原因で身体機能が低下した状態。

心大血管疾患: 心不全、心筋梗塞、狭心症、心臓手術後、大血管疾患など。



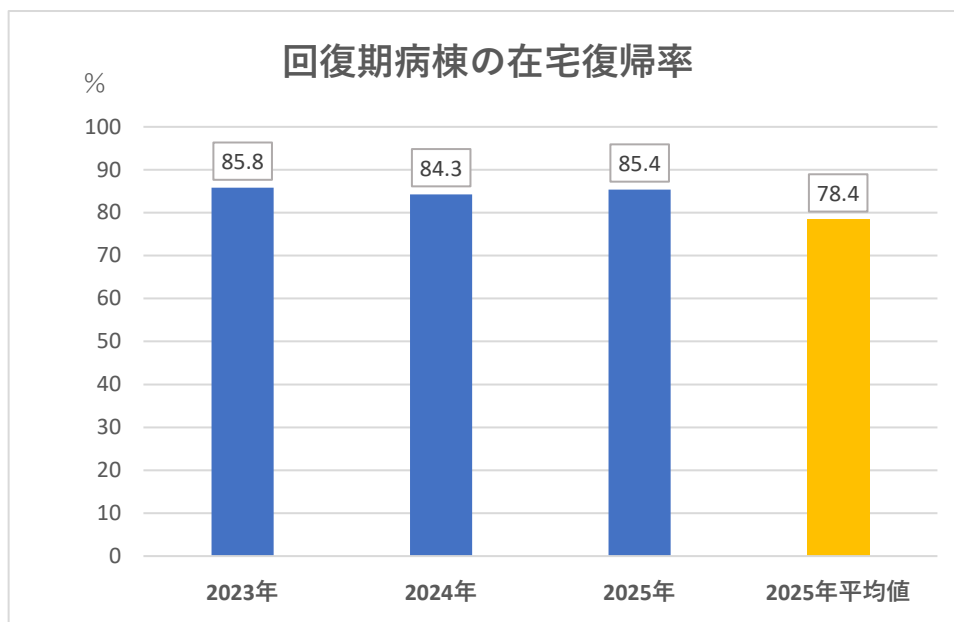
## ■ 回復期病棟の平均在院日数

平均在院日数とは、患者さんが入院してから退院するまでの期間が平均でどれくらいかを表しています。患者さんの重症度や疾病によって入院日数に違いがあるため単純に比較することはできませんが、患者さんが回復目標を達成し、より早く退院後の生活に戻るためのリハビリテーションが効果的に行われているかを判断する重要な指標となります。より低い数値を目指していきます。



## ■ 回復期病棟の在宅復帰率

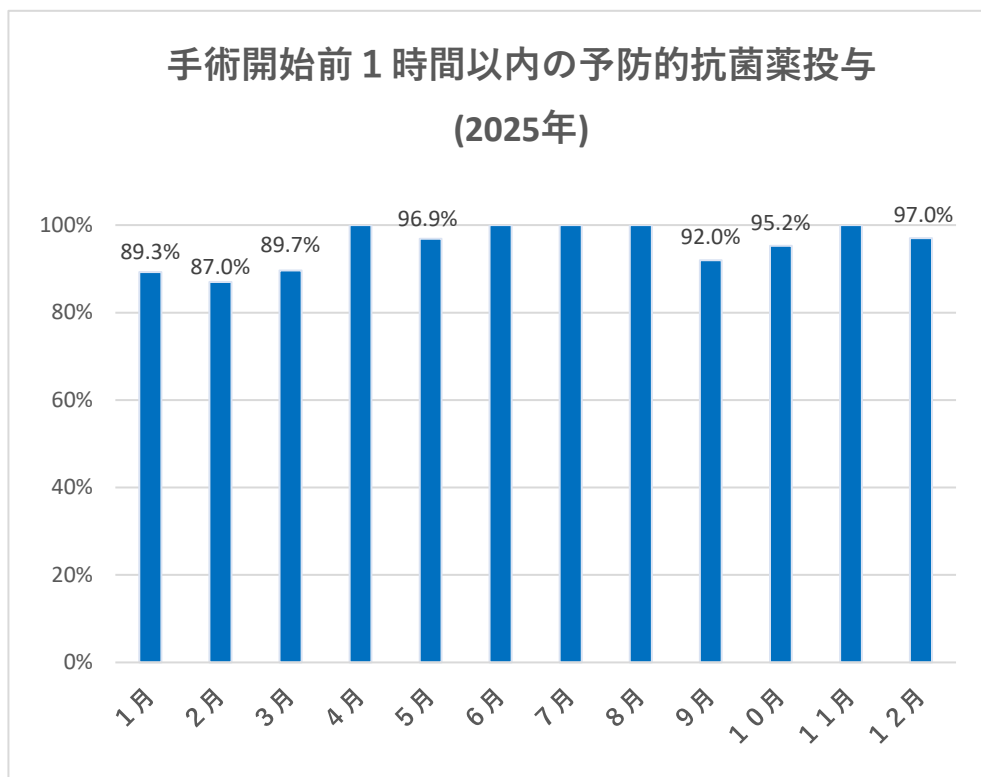
在宅復帰率とは、回復期リハビリテーション病棟から退院した患者さんのうち、自宅や特定の居住系介護施設などに戻ることができた割合を示す指標です。高い在宅復帰率を維持することは、質の高いチーム医療と積極的なリハビリテーションの成果とみなされます。



※2025年平均値：回復期リハビリテーション病棟協会調査報告書より

## ■ 手術前1時間以内の予防的抗菌薬投与

手術前の抗菌薬投与は、手術部位感染予防のため、手術開始（皮膚切開）の60分以内に投与を開始し、術後合併症を減少させるための標準的な感染対策です。手術部位感染の発生を予防することで、入院期間の短縮や医療費の適正化を図ります。この指標は、患者さんが安全で質の高い手術を受けられているかを判断する目安の一つになります。



## ■ 救急患者受け入れ件数

